

## 近況報告

新型インフルエンザも寄せ付けず、無事学校祭も終わりました。その学校祭の最中、P T A改築委員の皆さんに集まっていたいただき、今の状況を報告、そしてご意見をいただきましたので、その様子をお知らせいたします。

基本設計、実施設計に向けて、特別支援教育課、長養とも連携して本校改築委員も、緊急の会合を開きながら、必要な部屋・設備・用途等について検討を進めています。また、学校やP T Aの意向を受けて、県庁内でも特別支援教育課を中心に、資料作成が行われています。何とか厳しい財政の中でも、より良いろう学校をつくりたいと、気持ちを合わせて頑張っているところです。

P T A改築委員会では以下のような報告があり、意見が出されました。

- ・各教室の広さを今より若干狭くする。(6×6m)重複学級も同じ広さに。
- ・特別教室についても広さは若干狭くなる。
- ・聴力検査室はできれば2つ欲しいが、対応できる機器を入れてもらえるなら1つでも仕方ないか。(これは、まだ学校としても統一されている意見ではないので、もう少し検討したいと思います)
- ・小中家庭科室、小中パソコン室は、高等部と一緒に使えば良い。
- ・図書館は、他に会議室を作るのであれば狭くても良い。(本が置いて、読めるスペース、できればテーブルとリラックスできるスペースがあればよい)
- ・理科室は今も時間が重なり合っていて、ニーズに応えられない状態なので、ぜひ2部屋確保して欲しい。
- ・保護者控え室は、赤ちゃんを連れてきたお母さんが、授乳できたり、赤ちゃんを寝かせたり、何より遠くから通うストレスを少しでも軽減できる様広い空間が欲しい。
- ・集団補聴システムは、ろう学校なのだから各部、各部屋に合ったものを検討し、しっかりつけて欲しい。
- ・電子黒板は、ぜひ導入して欲しい。
- ・各教室にテレビを入れ、文字情報システムを導入して欲しい。文字情報は絶対必要。文字情報の必要ならろう学校だからこそなくてはならないものは削らないで欲しい。
- ・体育館はバスケットボール1面、バレーボール1面とれるくらいの広さがあり、ステージが充分の広さがとれるくらいあれば良い。グラウンドを広く。
- ・床暖房やエアコンについては本当に必要な部屋はどこかを検討する。
- ・防音施工についても、必要な箇所について検討する。

これらの要望は、特別支援教育課にも伝え、今後の計画作りに活かして行きたいと思えます。また「普通学校」ではなく、「聴覚に障害のある幼児生が学ぶ学校」として、どのような施設、設備、配慮が必要か、今後も慎重に検討して行きたいと考えます。



これからも保護者や関係者のみなさんの声を聞きながら資料作りをしていきたいと思っています。

葛飾ろう学校の聴力測定室、相談室の様子